

栃木県商工会連合会 稲葉光二 常務執行役に聞く

# 軽トラ市

その復興力について



軽トラ市が開催されたオリオン通り商店街



軽トラ市には2万人が押し寄せた



荷台がそのまま店舗に

軽トラには人を元気づける、興奮させる力がある。栃木県商工会連合会が一昨年から取り組んできた「軽トラ市」事業の関係者もそのことを実感した。同事業を指揮したキーマンが、軽トラ活用の効果を語った。



栃木県商工会連合会常務執行役

稲葉光二

鹿沼市出身。1972年から栃木県商工会連合会に勤務。事業部長、事務局長などを歴任。

私たち栃木県商工会連合会は昨年秋、宇都宮の中心市街地にある商店街で、県下の全商工会に参加を呼び掛け、「震災復興軽トラ市」を開催しました。農作物、加工食品から工芸品まで、県内各地のさまざまな産品が積まれた軽トラック総勢71台が、アーケード街の中心にずらりと並んだ光景は壮観そのものでした。

もともと数年前から、縮こまりがちな栃木経済、特に商店街の再活性化のために、とにかく何かガツンと刺激のあることをやってみてみたかった。加えて東日本大震災で、栃木県も東部を中心に大きな被害を受けた。震災復興と商店街再興。その両方につながるイベントが、今回の軽トラ市だったのです。



H24.11.11.(Sun) 11:00~14:00 県内全域からおいしい、あの名物、名産品が、軽「オリオン通り」やって来る

# 商工会 震災復興 “スー爺サンタ”の軽トラ市

主催：栃木県商工会連合会・栃木県商工会青年部連合会・栃木県商工会女性部連合会 / 後援：全国商工会連合会 / 協力：宇都宮オリオン通り商店街振興会



2012年11月11日に宇都宮市で開催された“スー爺サンタ”の軽トラ市。71台の軽トラが集結し、地元商店街と“競演”した

ヒントをいただいたのは、2010年の県商工連50周年記念式典で講演をお願いした鈴木修氏（フスキ会長兼社長）です。「地域産業の活性化に軽トラが使える」と述べ、地元浜松でもそれを実践しているというのです。正直、当初は半信半疑でしたが、一昨年に県内のいくつかの商工会で実験的に軽トラ市支援事業を行ってみて、効果を実感できた。そこで昨年、県都宇都宮を舞台に大々的にやってみました。

軽トラによる物販の醍醐味は、生産者と消費者のダイレクトな触れ合いです。肩と肩がぶつかり合うぐらいの距離で、作った人と買う人が直接対峙する。その熱気がいい。軽トラだから、「いままさにお届けしました」という産地直送感がある。「買い物」に本来あるはずのハレ感覚、お祭りの感覚が湧き起るのです。

震災で甚大な被害を受けた東北3県の復興支援に軽トラを活用するというのは、軽トラ市の熱気を知る私たちから見ても理に適っています。栃木県商工連も、さらにさまざまな試みを行っていきたく思います。

（談）